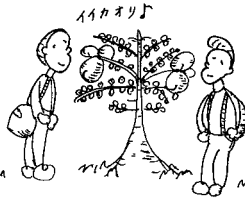


# シリーズ

## 阿久比を歩く ⑤2



タンポポの綿毛

西尾知多線（県道46号線）の阿久比地内最東端からスタートし、西へ向かいぶらり旅を始めた。道端に咲くタンポポの花にはミツバチが止まり、その横で綿毛は風が吹くのを待っている。つい最近までピンク色のレンゲ草が咲いていた田んぼにも水が張られ、田植えの準備が進む。

# あぐいぶらり旅

## 阿久比の道を行く（西尾知多線①）

県道に戻る。こいのぼりが民家の軒先で風に泳ぐ。『ゴルデンウィークの予定は』と友人に尋ねられる。『どこに行っても混むから、近くの公園でも行つて、子どもと自転車の練習でもしようかなあ』。『ところで君は』。『まあ、それなりに忙しいですわね』と不敵な笑み浮かべて意味不明なことを話していた。

「いいにおいがするねえ」。すっかり花粉症が治まった私にはほんのりと甘酸っぱい香りがした。友人は「今日は鼻が詰まっついていて、何もおいません」。『季節感のないつまらない男である。』

「ケーン。ケーン」。キジの鳴き声がよく聞こえる。田んぼに目を向ける。あぜ道で首を長く伸ばしキヨロキヨロとするキジを発見。「あそこにもいますよ」。『あれもそうじゃないか』。確認できただけでも三羽いた。双眼鏡がなくてもバードウォッチングを楽しめた。

阿久比川を眺めて今回のぶらり旅を終えた。次号につづく。

少し高台に竹やぶが見える。タケノコがメートルほど伸びている。『あれだけ伸びているとタケノコはかたくて食べられないんだよ』と友人に教えると『へえ、そうなんですか。タケノコはいつから大人になるんですかね』。『それは難しい質問だな』。『ところで今日は「梅」と「竹」ときたから次は何がくれば最高だと思っ』。『疲れたから甘いものがいいですね』。『ええ...』。『松』を探しにいこう。



梅の実